（1）３月17日に行われた山形大学岩田ゼミの研究発表。柏倉九左ェ門家・柏倉惣右エ門家の経営について、現代の企業経営と比較しながら分析した内容で、訪れた人は熱心に聞き入っていました　（2）山形楽奏による雅楽の演奏の様子　（3）休日は他県からのツアー客で賑わいました

柏倉九左ェ門家のひなまつり

３月２日から４月３日まで、ＮＰＯ法人柏倉家文化村主催の「柏倉九左ェ門家のひなまつり」が開催されました。

会場となった県指定有形文化財の柏倉九左ェ門家（岡）には、江戸時代から明治時代にかけて集められたという享保雛や古今雛が展示され、多くの観光客で賑わいました。

最上川舟運がもたらした柏倉家の雛人形

中山町は江戸時代、最上川舟運の船着場として繁栄しました。柏倉家に現存する雛人形の多くは、この頃、京都などからもたらされたものです。

雛人形の装束には、いずれも見事な刺繍が施されており、雛人形を通じて舟運がもたらした優雅な生活文化を垣間見ることができます。

様々な催しでおもてなし

ひなまつり期間中は、餅つきと餅のふるまい、山形大学の岩田浩太郎教授のゼミの学生による『柏倉九左ェ門家・柏倉惣右エ門家の金融的側面に関する研究』発表、「山形楽奏」による雅楽演奏など、様々な催しが行われました。また、毎週日曜日には、町内産の農作物や加工品の販売も行われ、訪れた観光客を楽しませていました。

古今雛（こきんびな）

江戸時代後期の明和年間に流行した雛人形です。

従来の雛人形の衣装をより一層華やかにして、金糸や色糸で刺繍された色彩豊かな装束と気品溢れる顔立ちが特徴です。

明治時代以降に流行し、現代の雛人形の原型となりました。

ここに注目！

現代の雛人形では「三人官女」が一般的ですが、柏倉家に伝わる古今雛では「五人官女」になっています。また、中央の官女は眉を落とした既婚女性（※）というのが一般的な構成ですが、柏倉家の五人官女は全員が振り袖を着ており、眉がそのままの未婚女性で構成されています。さらに官女全員が立っているというのも珍しく、他ではなかなか見ることのできない貴重なものだそうです。

※江戸時代、既婚女性は眉を落とす習慣がありました。

享保雛（きょうほびな）

江戸時代の享保年間に流行した、人形の高さ45～60㎝の比較的大きな雛人形です。

お内裏様に着目すると、胡座（あぐら）をかいているように見えますが、これは当時の貴族の座り方を再現していると言われており、享保雛の特徴のひとつです。また、豪華な衣装と面長の顔、切れ長の目も特徴です。

この頃、幕府はたびたび人々の贅沢を規制するお触れを出しており、大きくて豪華な享保雛も、贅沢過ぎると取締りの対象となりました。

芥子雛（けしびな）

江戸時代中期に流行した雛人形です。

人形の平均の高さが10㎝と小さめで、芥子の実のように小さいことから「芥子雛」と呼ばれます。

「享保雛」でも触れましたが、享保年間以降、年々人々の雛祭りが派手になっていることを受け、幕府はたびたび贅沢を禁止するお触れを出していました。

例えば、『御触書宝暦集成』では、「雛やそれとともに飾る人形は８寸（約24㎝）以下でなければいけない」という内容の制限がされています。こういった幕府の厳しい統制に対する反発から、小さいながら雅やかな雛人形や雛道具が流行するようになったようです。

※参考文献：「雛と雛の物語」暮しの手帖社